

5-3					
主題	ユマニチュード×DEMBASE を実践し認知症高齢者にもたらす有効性を検証				
副題	～長い一人暮らしから見知らぬ土地（施設）に来て～				
キーワード 1	ユマニチュード	キーワード 2	DEMBASE	研究(実践)期間	3 ヶ月

法人名・事業所名	社福) 奉優会 特別養護老人ホーム白金の森
発表者(職種)	西川あずさ(介護課長)
共同研究(実践)者	蝦名沙弥(介護士)

電 話	03-3449-9611	FAX	03-3449-9617
-----	--------------	-----	--------------

事業所紹介	白金の森は1988年に開所した従来型の特別養護老人ホームである。これまで多くの方のご入居があり、その方の生活のサポートとして様々な側面から多職種連携し、ケアを実践してきた。約30年間で築いてきた関係性もあり、地域の方々と協力し合い、施設行事や地域交流を進めている。
-------	--

《1. 研究(実践)前の状況と課題》

今回の対象者 T 様(80歳/男性)は奥様が他界してから、長い間、一人で生活してきたこともあり、他者との関りが少ない方である。さらにコロナ禍となったことで、ほとんど家から出なくなった。このままでは生活が成り立たなくなると想定でき、緊急のショートステイ使用による施設入所となった。初日から3日目までは職員が近づくことも否定的で、夕方から夜中にかけて出口や自宅を探す素振りが続いた。何より、私たち介護士は新しいご利用者にも慣れていることで、比較的安易なコミュニケーションを図ってしまい、それが逆効果となり厳しい発言や手を振るう行動も見られた。それが故に2日目には職員が距離を置いてしまった。

それでは生活にも、介護ケアにもならないことから、一から T 様との関係性を築くため、今までとは違ったアプローチ方法を検討し実践した。

《2. 研究(実践)の目的ならびに仮説》

ユマニチュードの4本柱「見る」「話す」「触れる」「立つ」と、5ステップ「出会い」「準備」「知覚の連結」「感情の固定」「再開の約束」を継続し、安心と関係性の構築をしていく。

日本版 BPSD ケアプログラムでは課題のあるご入居者の行動心理症状について NPI 評価尺度を用いて、行動心理症状を数値化し「観察・評価」「背景要因の分析」「計画」「実行」の PDCA サイクルにて継続し、確かなケア方法を導き出す。評価点数が減少すれば、その関わり方がその方に適していると評価するものである。

ユマニチュード×DEMBASE の二つの技法を取り入れ、ケアとして実践していくことで、T 様の生活が安心できるものになるか取り組んだ。

《3. 具体的な取り組みの内容》

解決するため、絆を作るユマニチュードを導入し、職員 1 名の仕事をフリーとして、3 時間ほど本人の居室で一緒に過ごした。最初は目も合わせてくれなかったが、追い出す素振りはなく、ただ単に職員に対して興味がない様子だった。時間を置きながら会話し、次第に目を見てくれるようになってからは会話を増やしつつ、少しずつ心の距離を縮めていくことに成功した。数時間の関わりから T 様は、女性より男性の方が安心でき、距離が近いと不安感が出てしまうが、心を開くと自ら近づいてくれると分かった。会話内容としては、仕事や故郷の話が多く、特に仕事に対する思いを熱く語ってくれて嬉しそうにされていた。関係性が出来てから「また来ますね」と再開のアプローチ。翌日から職員の関わり方を一変した。

《4. 取り組みの結果》

ユマニチュードによる関わりを意識し、ケアの 5 ステップ、4 つの柱を継続していくことで、1 週間後には笑顔が増え、怒りに身を任せる事や昼夜逆転も目に見えるように減った。2 週間後には、全てではないものの笑顔で挨拶をくれる関係性を築くことができた。

DEMBASE による初回の NPI 評価では 62 点だった数値が、3 週間後には 18 点まで下がる結果となり、手を振るうなど否定的な発言、行動が激減した。

別の施設に帰られるその日まで、笑顔で生活することができ、最初は関わりに否定的であった職員たちも笑顔で見送ることが出来た事例となった。

《5. 考察、まとめ》

私たちは今回の実践を通して、ユマニチュード×DEMBASE はとても価値のある技法だと実感できた。今まで職員個人の対応が多かったが、適切な技法を取り入れる事でその方らしい生活をつくることができ、良いケアとは何かと考える機会となった。一人一人の課題や苦悩に向き合い、その方の代弁者となれる介護職員で居続け、そういった思いのある職員に囲まれた介護環境を作っていきたい。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究(実践)発表を行うにあたり、ご本人(ご家族)に口頭にて確認をし、本発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

《7. 参考文献》

- ・「ユマニチュード入門」(2014) 出版社：医学書院
著者：本田 美和子 / イヴ・ジネスト / ロゼット・マレスコッティ
- ・とうきょう認知症ナビ、日本版 B P S D ケアプログラム (2024.5.31)
[認知症ケアプログラムの普及 | 認知症のポータルサイト とうきょう認知症ナビ \(tokyo.lg.jp\)](#)

《8. 提案と発信》

新しい介護として、介護過程、個別介護計画、そしてユマニチュード×DEMBASE など、ご本人の立場になって考える介護が広まれば、今まで以上に介護、福祉という分野が良い方向に広がり、10 年先の介護が豊かになると思っている。